

あいづわかまつ 文化財だより

発行：会津若松市教育委員会
編集：会津若松市教育委員会文化課
〒965-0873 会津若松市追手町2番41号
TEL 0242-39-1305 FAX 0242-39-1272
—第31号—
令和6年(2024)4月1日

文化財を火災から守れ!



御薬園の御茶屋御殿にむけて放水!



初期消火訓練の様子

法隆寺金堂壁面が焼損した1月26日を「文化財防火デー」と定め、火災等の災害から守るために全国的に「文化財防火運動」を展開しています。
市では、毎年この時期に防火査察や火災防ぎ訓練を実施しています。
1月19日に消防署との合同で、国・県指定の文化財建造物など9施設を対象に、防火設備の点検、防火防炎の指導を行い、1月21日に国指定名勝「会津松平氏庭園(御薬園)」において訓練が実施されました。御茶屋御殿からの出火を想定し、御薬園職員による通報・初期消火訓練、消防署、消防団による中継放水や放水訓練などの訓練が行われました。
あいくの雨模様でしたが、災害はいつ起こるか分かりません。貴重な文化財を守るためには、地域全体での防災意識の高まりが重要となりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

高野地区発掘調査

高野地区で実施中の農地整備に伴い、令和3年度から昨年までの3年間で、工事遺跡が壊される箇所の発掘調査を行いました。
3年間の調査では、平安時代前期(9世紀頃)の掘立柱建物跡や土器などが最も多く見つかったほか、古墳時代初め頃(3世紀半ば頃)の井戸跡や、縄文時代前期(6,000年前頃)の縄文土器なども見つかりました。
見つかった縄文土器は、関東地方で流行した文様が施されており、当時の人々の交流関係が想定されます。



出土した縄文土器
これまで高野地区では縄文土器はほとんど見つかっていませんでした。

文化財の保護 未来へ残すために

八田野神楽復活へ

市無形文化財である「八田野神楽」を継承している八田野神楽保存会の渡部浩己会長に、活動のようすについてご寄稿いただきました。

八田野神楽保存会会長

渡部 浩己さん

市無形民俗文化財の「八田野神楽」は、平成30年まで、無病息災などを祈念して、春彼岸に地区の各世帯を回る「かどうち」を中心に、活動して来ました。

数年前、道具類の劣化や会員の高齢化・継承者不足等の理由から解散に向け検討していたところ、令和3年度に道具類の修繕可能な国の補助事業の照会があり、関係者で協議の結果、青年会を軸に会員が支援する体制で存続が決まり、道具類も補助事業で修繕しました。

その後、昨年春に再開した「かどうち」を契機に、数十年ぶりに「長獅子」復活の気運が高まり、昨年12月から練習を始めました。

本年4月には、地元の皆様へ披露する「寄せぶち」を催し、伝統芸能を後世に繋ぐ活動を、続けて参ります。



八田野神楽保存会のみなさん

文化財パトロール

会津若松市では、市内各地に存在する文化財を守るため、12名の方に「文化財パトロール員」をお願いし、定期的な巡視による保存や管理状況の把握を行っています。
建物や樹木、石造物などの指定文化財に異常が無いかの確認や、埋蔵文化財と呼ばれている旧石器時代から江戸時代までの「遺跡」が無断工事で壊されていないかなどの確認を行い、文化財を後世に残すため活動しています。

郷土研究の奨励

郷土会津に関する調査、研究等を行った作品を毎年募集し、郷土研究に取り組み方の励みになるよう、優秀な作品には奨励金を贈呈しています。
令和5年度は準奨励賞2作品、努力賞7作品を奨励しました。準奨励賞以上の作品は歴史資料センターまなべこや会津図書館で閲覧することが出来ますので、ぜひご覧ください。
令和6年の募集要項については、5月1日以降発行の市政だよりおよび市のホームページを参照してください。



郷土研究奨励金交付式記念撮影

受賞内容	作品タイトル	氏名	所属(受賞時)
準奨励賞	劇作家藤虎と会津-The Toils of Yoshitomo (「義朝記」)の世界-	高野 延光	
準奨励賞	中田浜のヌマエビからみる猪苗代湖の水質の変化	安田 瑛喜	若松第二中学校2年
努力賞	弥生時代から古墳時代へと変遷する古代会津の姿	五十嵐公一	
努力賞	歴女事始め	築田真知子	
努力賞	なぜ「会津磐梯山は宝の山」なのか	川島 大揮	
努力賞	「だべ」を使う人は年代によってかわるのか?	遠藤 樹	門田小学校4年
努力賞	未来を照らせ会津の発電!!	大藪 功介	城西小学校6年
努力賞	津川は会津の玄関口!? 越後街道は塩の道	高畑えみり	一貫中学校1年
努力賞	会津工芸品で何だろう?	鹿目 悠斗	松長小学校6年

文化財の活用

知ってもらおうための取り組み

文化財に関する意見交換会

令和4年度から、文化財についての意見交換会を実施しており、令和5年度は、2部構成で行いました。第1部は民俗芸能や祭礼等の伝統行事の継承をテーマに、地域の方に事例報告してもらい、歴史文化継承の意義や問題点などについて活発な議論が交わされました。このうち八田野神楽保存会の内容を最後のページで紹介していますのでご覧ください。

第2部は、地域に残る歴史資源とその保存・活用についてをテーマに、湊地区における製鉄関連の遺跡に関する取組などの発表がありました。意見交換会の内容については、ホームページでも公開しています。

湊町ワークショップ

令和5年7月から9月にかけて「湊地区の魅力発信マップをつくらう」と題し、全3回のワークショップを開催しました。



ワークショップのようす。参加者の皆さんが熱心にマップ作りをしています。

今回は、湊町に残る歴史資源の魅力や次世代に伝えるためのマップを作り出した。歴史資源や、お気に入りの風景を地図上に写真で示し、それぞれに参加者のみなさんが思い思いのコメントを付箋でつけました。

参加者のみなさんからは、「写真の紹介文を考えるために調べなおすことで、地区についてのより詳しくなれた」との感想をいただきました。

今回のワークショップで作成した地図は、現在、歴史資料センターまなべこで展示されていますので、ぜひご覧ください。

まなべこ常設展示リニューアル

歴史資料センターまなべこ常設展示室の展示内容を



リニューアルオープンに際して行われたギャラリートークのようす。

まなべこ歴史文化講座

歴史資料センターまなべこでは、一ヶ月に一回程度、



まなべこ公式HP

リニューアルしました。今回の展示テーマは「会津の教育」若松城と戊辰戦争「近年の発掘調査成果」です。

「会津の教育」では、昔、実際に使われた教科書を展示し、会津における江戸時代から近代に至るまでの教育の移り変わりを、パネルを交えながら解説しています。

「近年の発掘調査成果」では、鶏林遺跡、市役所本庁舎改築工事にかかる発掘調査、高野地区の圃場整備にかかわる発掘調査で出土した遺物を各調査成果の解説パネルとともに展示しています。ぜひ一度お越しください。

◎歴史資料センターまなべこ（城東町2-13、月曜休館、271-2705）

院内御廟歴史散策会

東山町にある史跡、会津藩主松平家墓所（院内御廟）は、江戸時代に造られた、藩主とその家族のお墓です。

市では毎年、実際に史跡の中を散策しながら、墓所のつくりや会津藩の歴史について学ぶ催しを開催しており、今年度は10月29日に行いました。散策会では、初めて御廟の案内を聴く方歴史についても少し詳しく知りたい方、藩主のお墓について知りたい方とコース分けをしています。

院内御廟はその広さやお墓の造りが全国的にも珍しいと言われています。令和6年度も開催を予定していますので、ぜひご参加ください。



お墓を守る亀趺（通称 亀石）の説明を聞きます。

発掘調査 地中に眠る遺跡の記録

本町の道路拡幅工事に伴う発掘調査

市内本町で、遺跡の範囲内で市道藤室鍛冶屋敷線の拡幅工事が予定されていることから、工事の際に遺跡を保存できない範囲について、7月から10月にかけて発掘調査を行いました。

調査範囲は、江戸時代にも道路として利用されていた場所だったので、砂利や砂を混ぜて硬く叩きしめた道路の痕跡を確認しました。

また、道路の下にはさらに昔の生活の跡が残っていて、金属を鍛造する際の鑄型や、炉の壁跡がたくさん出土しました。そのような状況から、この場所が道路と



発掘調査のようす。調査区を小さく区切って行いました。

若松城郭内武家屋敷跡の発掘調査



鑄型が出土したときのようす。（オレンジ色の塊が鑄型です。）

調査地は、江戸時代の郭内の北西端部で、幕末に禄高200石の筒井善太夫邸と、郭内と郭外を隔てる土塁、外濠があったところ

明治時代になると、土塁は壊され外濠は埋められたため、土塁の痕跡が残っていませんでしたが、その下から弥生土器や奈良・平安時代の土器が出土し、溝なども見つかりました。

また、外濠跡が確認され、調査区よりもさらに西側に延びることがわかりました。

赤井谷地観察会



大塚山古墳の講座のようす。ブルーシートで、木棺（ひつぎ）の位置と大きさを表現しました。

湊町にある赤井谷地沼野植物群落は、約2万年前の水河期に自生していた北方系の植物が現存している国内では珍しい陸化型の高層湿原です。自生している約200種類の植物のうち北

会津の歴史や文化について学ぶ講座を開催しています。令和5年度は、お城の中や街中に残る城下町の痕跡、登録文化財などを歩いて巡るまち歩き講座や、実際に大塚山古墳に上って古墳の大きさや構造を体感しながら学ぶ講座、屋内では、江戸時代の歴史や発掘調査に関する講座、民謡を聴きながら学ぶ講座などを開催しました。

令和6年度もさまざまな講座を予定しています。内容は市政だよりやホームページなどでお知らせしますので、ぜひお気軽にご参加ください。



図面を片手に赤井谷地の解説をする笹田准教授

方系の植物は38種確認されており、学術的価値も高く、昭和3年（一九二八）に国の天然記念物に指定されました。

このように貴重な赤井谷地を体感し、湿原の保護・保全への理解を深めていただくための観察会を昨年8月に開催し、市民22名が参加しました。講師には、長年調査に携わっている日本大学の笹田准教授をお迎えし、谷地の成り立ちや植物について、図や写真も交えながら説明していただきました。

谷地内に生息する希少な植物を観察する場面では、貴重な植物の姿に大人も子どもたちも目を輝かせていました。

なお、赤井谷地は、湿原の保護のため、普段は立ち入り禁止となっておりますのでご注意ください。

平沢地区試掘調査



発掘調査のようす。

会津若松市平沢地区では、農地整備が計画されており、令和3年度の踏査の結果、複数の埋蔵文化財の存在が推定されたため、事前に試掘調査を行い、それらの正確な内容や範囲の確認を行いました。

調査の対象となった範囲



作業風景 遺跡の有無やその性格を探っています。

筒井邸があった場所は、明治時代以降に開発されたため、屋敷の痕跡は見つかっていませんでしたが、武家屋敷に使われた陶磁器や、茶道に使われたと考えられる江戸時代初期の織部焼の向付や志野焼の碗などの貴重品も出土しました。

また、室町時代の古瀬戸の碗なども出土したため、この場所での蘆名氏時代の生活の痕跡も確認されました。

筒井邸がなかった場所には、当時の主が使用していたと考えられる破片や、儀礼用の土器の脚などがあがり、通常の集落とは異なる性格がうかがえます。もう一か所は中学校の南側に位置しており、古代の土器や陶磁器が出土し、柱穴や大きな穴の痕跡を確認しました。

また、遺跡範囲の西側には、現在の地面のすぐ下に河川由来の川砂と礫からなる堆積層が広がっており、脇を流れる旧湯川の氾濫原であったことが伺えます。